

第16回大宮区民会議 議事録

1. 日時 平成31年2月27日(水) 15時00分～16時15分

2. 会場 大宮区役所3階特別会議室

3. 出席者 24名

(委員) 16名

花俣淳一会長、池上明彦副会長、横山千恵子副会長

新井陽子委員、井上恵美子委員、大野敏子委員、齋藤泰雄委員、仙石玲委員、

田代秀一委員、登坂篤委員、野瀬加代子委員、藤田信一委員、星野美子委員、

松岡忠男委員、松本よしの委員、村上隆子委員

(欠席委員) 2名

小倉京子委員、武田千春委員

(区職員) 2名

会田(大宮区長)、阿久津(副区長)

(事務局) 4名

佐藤(コミュニティ課長)

粕谷、佐伯、加藤(コミュニティ課)

(コンサルタント) 2名

森、白木(㈱社会構想研究所)

4. 内容

(1)開会 花俣会長

(2)「第8期大宮区区民会議 成果発表会」

1)協議プロセスについて 横山副会長

①大宮の歴史と現在を知る→「いま、大宮は動いている」を合言葉に、区民会議委員として、知っておかねばならないことの学習を進めることを確認した。

主なテーマは次の3本

● 大宮駅グランドセントラルステーション化構想

● 大宮公園グランドデザイン

● 区役所・図書館の新築移転

これらについて各事業の担当者による出前講座および大宮公園のフィールドワークを実施した。

②協議テーマと方向性の設定

【三つのキーワード】

● 大宮らしさ :来街者ではなく、まずは区民が大宮らしさを理解できるようにする。

大人も子どもも区民みんなが大宮の魅力に気づく仕掛けが必要。

● 公共用地の活用

区民会議としての提案のしやすさを考えると「公共用地の活用」が第一に上がる。箱モノの建設以前に、そこで何をするのか、何ができるのかを考えることが重要。

● 超高齢社会を見据えて

高齢者も子育て世代も住みやすく、共生できる街の実現。

○テーマの決定

【協議テーマ】 大宮の将来に向かって～区民が求める公共用地の活用～

【協議の視点】 「大宮区民の憩いと潤い」「行政とは違う身近な点で考える」

③第8期区民会議テーマの協議

・ 「憩いと潤い」

憩いと潤いを感じられる主なロケーション(場所)やシチュエーション(場面)の想定

・ 「たまり場」の創造

人々が集う空間や施設とはどのような場所か、どうつくるか

● たまり場に不可欠な一般的要素

① ミラノ大聖堂前にあるような人が自由に集える広場

② 水道、トイレ、ごみ箱など人が滞留する場に欠かせないアイテム

③ 子ども連れ(ベビーカー)や車いすなどでも不自由なく移動できるロケーションや設備

④ 公共施設利用の自由度を高める申請手続等の簡略化、街頭パフォーマンス等に対する規制の緩和

● 大宮のたまり場づくりに欠かせない特殊要素＝大宮アイデンティティの形成

① さいたま市、埼玉県産の食材を使った特産品開発、商品PRや地産地消イベント等の場としての広場の活用

② 大宮の芸術・文化活動スペースとしての活用

③ 商都大宮再生等に関連する起業インキュベータ、スタートアップの場としての活用

・ 公共用地の活用

区役所跡地、図書館跡地、大宮公園を事例として検討

・ 先行事例調査

類似した先行事例として、東京都豊島区周池袋周辺(豊島区役所新庁舎、南公園等)を実地調査

2) 区民が求める公共用地(区役所および図書館跡地、大宮公園)の活用方法について 池上副会長

[公共用地の活用に大切な三つの要素]

● つどう =人々が集まってくること

今回検討した3カ所は、大宮駅からも近く、多くの人を訪れる場所。そのことから、人々が気軽に集まれる場所、何かを得られる場所であることが大切。また、多様な人が集うことで、相互の理解が深まることが期待される。

● つなぐ=多様な人々をつなぐこと

子ども・おとな・シニア、男性・女性・その他の性的少数者、日本人・長期間日本に滞在している外国人・縁あって大宮を訪れた外国人、大宮在住の人・その他の地域から訪れた人など、多様性を尊重し、多様な背景のある人がお互いに理解を深めるはたらきをもつことが大切。

● つくる=新たな魅力をつくること

今回の討議過程で市民が取り組む文化活動等の練習や発表の場が必要との意見が多く出された。また氷川神社等の祭礼や民俗資料、江戸以来の中山道大宮宿の歴史や鉄道、紡績、盆栽等地域の産業に目を向けることも地域理解には欠かせない。このように市民の手で何かを「つくる」場であることが地域の新たな魅力を生み出す。

【大宮区役所跡地】 大宮の歴史と文化を感じ、後世に伝える場所

(概要)

* 大宮駅から徒歩 5 分圏内の好立地

* 東日本と首都圏を結ぶ玄関口・交流拠点として整備が進められようとしている「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」に最も近い公共用地

* 面積は約2 万6千㎡(大宮小学校用地を含む)

● つどう

- ・子育て支援の拠点
- ・外国人のニーズ(情報、教育、生活)に応えられる場
- ・小さなカフェのような飲食スペース、きれいに保たれたトイレ
- ・10階建てほどの複合施設(乳幼児、青少年、市民交流の場)

● つなぐ

- ・「三世代」が交流できる場
- ・外国人のニーズ(情報、教育、生活)に応えられる場
- ・介護や子育てについて相談や交流できる場所
- ・異文化交流、日本語教育、様々な相談対応のできる場所
- ・バスターミナル…市内各所、日本各地を結ぶ

●つくる

- ・生涯学習、ダンスや音楽などの練習や発表の場、小さな多目的ステージ
- ・集客力のある公演や様々なアートに対応できる施設
- ・先人たちのくらしと文化に触れ、体験できるような「記念館」

【図書館跡地】 閑静な環境の中、人々が集い憩える場

(概要)

- * 氷川参道に面し、氷川神社、大宮公園に近い閑静な環境
- * 博物館に隣接している。
- * 面積は約4千㎡

●つどう

- ・大宮駅と氷川神社の中間の「休憩所」
- ・和喫茶・・・抹茶が似合うイメージ
- ・一服しながら、次は何を、と思えるような寛ぎの情報スペース
- ・「立体駐車場」を設置し、市内観光の拠点に

●つなぐ

- ・「道の駅」「宿の駅」など、人と人、人と街、人と歴史をつなぐ場
- ・おもちゃの修理や交換、提供コーナー(おもちゃ病院)
- ・博物館とのコラボで大宮の歴史がわかる展示、祭り会館として

●つくる

- ・句会、百人一首やかると会、囲碁・将棋などの和文化の発信拠点
- ・地域の人々の様々なアートの練習や発表の場
- ・地域の伝統工芸や手作りの品を展示・販売する場
- ・「人力車」など街の新たな魅力、観光資源の開発

【大宮公園】 市民が集える場としてのポテンシャルの高い場所

(概要)

- * 開園 130 年、氷川神社との関係が深く、梅や桜の名所
- * 東京の日比谷公園、ニューヨークのセントラルパークに匹敵する緑
- * 市民が最も身近に感じている公園
- * 第1公園～第3公園合計 67.8ha(20 万坪)

●つどう

- ・行き方や入口、駐車場をわかりやすく誘導できる仕組みが必要
- ・いろいろな種類のカフェを配置し、好みに応じて利用する方式
- ・スポーツ、フリマ、バーベキューなど様々なニーズに応えられる
- ・花見、水遊び、ウォーキングなど四季を通じて多世代で楽しめる

- つなぐ
 - ・市内全域のみならず、広域から人が集まってくる
 - ・野球、サッカー、自転車競技などの競技スポーツ愛好者が集まる
 - ・四季折々に楽しめる
- つくる
 - ・様々なイベントが行える
 - ・野外音楽堂など、手軽く安価に利用できる発表の場
 - ・大宮公園や氷川神社の歴史がわかる施設
 - ・いざという時の避難や救援の拠点

3)まとめ 花俣会長

公共用地の「活用」のポイント

- *さまざまなひとびとの交流の場
- *市民の活動の発表の場
- *歴史と文化を踏まえたもの

- つどう
 - ・人口が増えていること
 - ・大宮に来る人が増える
 - ・街の活性化、にぎわいのキーワード
- つなぐ
 - ・世代や民族文化など、多様な人々がつながりをつくる
 - ・だれもが暮らしやすい街になる
- つくる
 - ・新たな「何か」を、市民の知恵と力でつくる

*これは、この3施設にとどまらず、今後、大宮が将来にわたって住み続けたいと思う街になるために重要な視点

(3)会田大宮区長講評

会長、副会長はじめ第8期大宮区民会議委員の皆様、2年間にわたる協議、検討の結果、「つどう」「つなぐ」「つくる」の三つの柱をもつ綿密な提言をいただきありがとうございました。皆様の貴重なご提言をこれからの大宮のまちづくり、豊かなコミュニティ形成に向けての参考とさせていただきます。先般、大宮区民会議は所期の役割を果たしたことを踏まえ、今期をもってその任を解くことが決まりましたが、皆様には大宮区の一層の発展に向け、今後とも各種団体等を通じ区民としてのご協力を賜ることができれば幸いに存じます。(一部抜粋)

以 上